2023 年度 第 3 回理事会　議事録　2023.9.16

日時：2023 年 9 月 16 日（土）13：02～16：28
開催方式：ハイブリッド開催（現地＋オンライン）
場所：現地）神奈川県横浜市中区真砂町 3-33　商業ビル「セルテ」8 階 801 会議室
　　オンライン）自宅または職場
現地出席理事：神保武則（会長）、田中ゆかり（副会長）、吉本雅一（副会長）、玖島弘規（事務局長）、奥原孝幸、望月強併、佐藤隼、遠藤陵晃、青木啓一郎、 神田崇央、佐藤範明、神保洋平、金山桂（13 名）
オンライン出席監事：錠内広之（1 名）
欠席理事：佐々木秀一、野本義則、澤口勇、山勢健太朗、和田尚（5 名）
欠席監事：野々垣睦美（1 名）
その他出席者：兵頭夏海（事務局部員）、薄井文香（事務局部員）

【第 1 部】

Ⅰ．会長挨拶

先日、よんぱちの会議がありましたが神奈川県は全国に比べて会員数増加に向けた取り組みが先行しているように感じました。OT 協会の方で指針が出ていますが、会員数増加に向けた取り組みが多いです。将来に向けた県士会作りができるよう協力して取り組んでいきましょう。

Ⅱ．会長からの報告事項

１．理事について

エリア化推進委員会の担当理事である和田 尚理事より体調不良を理由に理事を辞したいとの希望があった。
経緯について吉本理事より説明。
心身的に理事業務を続けていくことが難しく退任することで検討させて頂きたい。
後任者が決まるまでは前任者が業務遂行することになっているが、エリア化推進委員会に前理事の大郷氏が在籍しているためサポートしてもらいながら全理事で対応していきたい。
今後の予定としては､2023 年 5 月の総会では役員選挙がないため､次の役員選挙までは現体制で運用していく。
しかしメール審議に関しては、全理事のメール返信での承認を要する。後任の理事が決定するまで前任者が対応することとなっているため、審議の際は吉本理事から和田理事へ連絡し対応してもらう。
（錠内監事）理事の辞任について審議は必要なのか。また退任しても審議は参加するものなのか。
（吉本理事）一般社団法人法に記載されているが後任者が決まるまでは前任者が対応することになっている。対応については今後検討が必要。メール審議に参加してもらうことは本人からも了承を得ている。

Ⅲ. 報告事項（各部署・理事・三役）

１．財務部

(1) 中間監査について
10 月 8 日(土)に 2023 年度中間監査を実施予定。監査書類は提出の際、修正が無いよう確認し 10 月 4 日(水)必着。

２．広報部

(1) マイナビ進学ライブ 2023（横浜）の報告について

155 機関のブースがあり、社会人アドバイザーとして集まった。高校１年～３年生 3000 人弱（親御さん含めて）参加。後半はリハビリブースが賑わっていた。155 校のうち 10 校はリハビリ関係の学校であり、参加者同士の情報共有が行えた。VR を使って作業療法士体験が出来る学校もあったため、活用しながら作業療法士になる人を見つけていけるように県士会としても取り組んでいきたい。

３．福利部

(1) 小学生対象オンライン施設見学会について

昨年は中学生のみを対象に行っていたが、今年度は小学生２名、中学生２名の計４名参加して頂いた。オンラインで病院見学とソックスエイドの作成を行い、楽しく行うことができた。

４．制度対策部

(1) 安否確認システムの運用訓練(災害対策事業班)について

OT 協会と連動して行っており、理事の安否確認においてはグループ LINE と理事メールで確認を行う。

全員の安否確認が取れた時点で訓練を終了。訓練は９月 25 日(月)に行う予定。開始時刻は 11 時を想定。協会から連絡が入り次第、訓練を開始する。

（吉本理事）グループ LINE は理事・監事全員登録しているか。

（玖島理事）全員登録している。

５．学会評議委員会

(1) 第 19 回県学会について

9 月 16 日時点で参加登録者 209 名（会員・非会員含めて）の申し込みがあり、ワークショップは 12 名参加予定。当日の会場スタッフは 31 名で対応予定となっている。

当日は第８回アジア太平洋作業療法学会のポスター掲示を予定。

(2) 第６回神奈川県臨床大会について

実行委員を選任しており人員が決まり次第、実行委員会を開いていく。

会場候補については、第一候補は海老名市民会館、第２候補は厚木市民会館で検討している。

６．認知症対策委員会

(1) 各士会認知症関連活動報告書の提出について

神奈川県士会として、年 2 回の研修会開催、RUN 伴＋への後援、アルツハイマーデーに因んだオレンジ色の県士会ロゴマークの作成を行っていることを共有させて頂いた。

(2) アルツハイマーデー月間中のロゴマーク使用について

９月の県士会事業においては、オレンジ色のロゴマークを使用して頂きたい。

７．地域包括ケアシステム推進委員会

(1) 「保健事業と介護予防の一体的実施」の横浜市のヒアリング実施について

８月８日(火)16 時～17 時でヒアリングを行った。横浜市は保健事業と介護予防事業の一体化がされていない。今後、展開していくにあたり高齢者の一体的な事業をしていく。横浜市はフレイル予防に向けて進めていき、外出困難な方に保健師と一緒に訪問してほしい、外出できる人に向けて集団活動の場の提供を期待されている。

OT・PT・ST 士会と一緒に取り組んでいく。
今回の事業は委託であり、団体契約が必要。家庭訪問は 2 ヶ月前から打診が必要。横浜市の医療や福祉法人も検討。職能団体との契約が必要な可能性もある。令和 6 年度は泉区南区栄区が対象。この 3 区は OT が少ない地区であるため今後検討が必要。
(2) 2023 年度令和 5 年度訪問リハ・地域リーダー会議開催について
8 月 26 日(土)に開催され、半日の会議であったが、高齢者の口腔に対して ST から共同事業について報告があった。通所系サービスにおける介護予防など ST が働きかけた強化を報告。運動と口腔機能向上のための働きかけを紹介していた。後半では、訪問リハのリーダーたちが質の担保を行った中でどのように関わっていくか。コロナ化によって勉強会もできず、質の担保が下がっている。全都道府県で訪問リハ実務者講習会を行う予定。神奈川県は 3 年連続講習会が中止になっていた。他県はオンラインで開催していたため、2024 年 1 月 21 日(日)にオンラインにて開催することとなった。小児領域における訪問リハの需要が高まっており、小児領域における人材育成を行っていく予定。
（金山理事）広報部でも連携できることがあればぜひ協力したい。

８．地域リハビリテーション部
(1)地域での介護予防イベントについて
8 月 26 日(土)に藤沢市の介護予防イベントにブースを出展し、部員 4 名と市内にいる作業療法士と協力して参加した。当日はパンフレットの配布やフレイルチェックを実施し、23 名の一般市民の参加があった。このような機会を作りながらフレイル予防と OT の普及啓発を今後も図っていきたい。

９．その他部署からの報告
(1)選挙ワーキンググループ
選挙管理委員会と連携しながら活動している。
役員選挙に関するマニュアルや規約、内規についてアンケートを実施予定。代議員選挙の実施年であるため選挙の準備も進めていく。

(2)規約委員会
謝金規程の改定を検討しており、理事へアンケートを実施予定。
今後オンデマンド配信に対応した謝金規定も検討する必要があるため、オンデマンド配信（一定期間ネットで見られるもの）に対応した研修や依頼を受けたことがある方がいたら情報収集をさせて頂きたい。

【理事・三役】
１．田中理事
(1) 渉外報告：2023 年度第 2 回協会長及び士会長会議（よんぱち）について
9 月 9 日(土)、10 日(日)に開催された。就労に対する OT の啓発をするため両立支援コーディネーター取得の推進を行っていく。また各士会役職者との意見交換会を ZOOM で行っていきたいという話も出ている。
留学生の受け入れも再開しており、外国人に対するガイドライン策定に向けたアンケートを実施予定。
2025 年に学術評議委員会を設立予定。「協会員＝士会員」実現に向けた検討委員会において、経緯の説明を協会フリークドライブにまとめているため確認をお願いしたい。スケジュールを変更し 2027 年度の総会で定款規程の変更完了後、始動となる予定。各都道府県士会から多くの質問があり、OT 協会は 2 月には最終方策案を提示する予定になっている。

2 日目は組織率対策について話題があり、OT 協会は会員数増加を目指している。
入会者・退会者の数として神奈川県は貢献している。会員を多く持つ 6 士会を見ると養成校があり入会が 200 名前後となっている。OT 協会としては年間 500 名の会員を増やすことを目標にしている。
神奈川県は退会の理由を知る・共有することが必要であることを共有。強制退会者が多いため制度の変更を検討する必要があるか。その他、東京都士会や茨城県士会などの取り組みを共有。
(2) 謝金についての進捗報告
講師謝金について OT 協会も値上げをしており、今後、県士会の講師謝金の変更も検討していきたい。
また謝金だけではなく、ポイント制なども検討し会員のモチベーションが上がるような取り組みを検討していきたい。
（遠藤理事）講師謝金については今年度中に変更する予定か。
（田中理事）予算の兼ね合いもあるため今年度中の実施は難しい。開始時期については調整していく。

２．神保(洋)理事
(1) 日本作業療法士協会生涯教育推進班より「新生涯学修制度」の概要について
8 月 29 日(火)にオンライン会議が開催された。その中で研修会について、座学研修が多いため実技の研修が不足しているとの話題が上がった。また OT を一般 OT→登録 OT→認定 OT→専門ＯＴに区分する案も検討されている。

３．吉本理事
(1)福祉の日クリアファイルについて
福祉の日のクリアファイルを OT 協会より無料で配布される。使用部署など理事メールで確認させて頂く。

Ⅳ. 審議事項

１．部員承認（事務局）
→賛成多数のため承認

２．賛助会員Ａへの入会（事務局）
他県への転居に伴い、正会員から賛助会員Ａへの変更依頼　１名
→賛成多数のため承認

３．強制退会からの復会希望　１名（事務局）
→賛成多数のため承認

４．後援依頼（事務局）
(1) 第２４ 回医療・健康フェスティバル　@神奈川県保険医協会
→賛成多数のため承認
(2) 第５１回車いす SIG 講習会　@車いす S IG
→賛成多数のため承認
(3) 第 66 回日本病院・地域精神医学会総会神奈川大会
→賛成多数のため承認
(4) 第４２回神奈川県病院学会

→賛成多数のため承認

５．最低賃金引き上げに伴う事務局員の賃金変更について（事務局）

10 月から神奈川県は最低賃金が 1070 円から 1112 円に引き上げになっている。それに伴い事務局員の時給を現行の 1080 円から 1120 円に改定したい。

→賛成多数のため承認

６．研究助成事業班より（学術部）

2023 年度研究助成事業研究課題募集に対して 3 名の申請があった。

①出産・育児を経験した作業療法士が抱く「作業療法士観」構築の相互関係

研究代表者：甲本夏穂先生（国際医療福祉大学小田原保健医療学部，研究Ⅰ，23 年目）

②本邦の集中治療センターにおける作業療法教育に関する実態調査

研究代表者：駒場一貴先生（昭和大学藤が丘病院，研究Ⅰ，15 年目）

③シリコンインプラントを用いた乳がん再建手術後の新規作業療法プロトコルの開発

研究代表者：渡邉大貴先生（昭和大学藤が丘病院，研究Ⅱ，4 年目）

9/4 現在，書類審査および合議審査が終了し，3 名の申請者を内定した。

→賛成多数のため承認

７．第 20 回県学会長について（学会評議委員会・神保会長）

2025 年度開催される県学会の学会長について 3 名に打診をさせて頂いた。その中で中西理佐子氏を推薦したい。

→賛成多数にて承認

【第 2 部】

Ⅰ．2023 年度事業計画・中間評価について

１．事務局

三役会・理事会の運営、会員情報の管理、社員総会の準備を進めていく。

事務局の課題として会員管理システム、会計システム、専門家の導入があり、会員管理システムは OT 協会の動き次第で変わってくるため動きを見据えながら進めていく。会計システムでは事務局員の増員が喫緊の課題であるためまずは、事務局員 1 名の採用を検討中。専門家の導入では公認会計士に相談に行く予定。専門家の導入費用、新しい事務局の賃金に関して下半期で検討していく。会員情報の調査・追跡では会員管理システムをどのようにしていくか、ワーキングでも役割を考えながら進めていく。

２．財務部

県士会の会計管理、予算案の立案等を進めていく。下半期に向けて 1 月から領収書をデータで残すことになっていくためそこに向けて準備を行っていく。会計システムの変更については下半期で検討予定。

３．学術部

スキルアップ研修は今年度全 11 回を企画。現時点で 2 回実施済み。残り 9 回を順次実施していく。昨年度はオンラインのみの開催であったが今年度、1 回はハイブリット、1 回は対面で行っている。今後、講師謝金の増額が予想されるため開催回数も検討。今後はオンデマンドを利用して研修会のコンテンツを研修会の財産と

して蓄積して構築していきたい。
研究助成事業について今年度からは若手で研究に興味のある方へ研修会の企画をする。
学術誌の刊行、オンラインジャーナルで 2023 年度は 1 論文を公開。現在も査読中であり決定すれば更新予定。
査読者と編集部員を一般から募集中。来年度もオンラインジャーナル刊行継続と一般からの募集も継続。
研究倫理審査委員会の設置について、現在は情報収集のみとなっているため今後設置に向けて検討していく。
・査読者と編集部員の一般公募の条件について
正会員であれば問題ないとしているが、査読者に関しては修士号の取得や論文の実績があると良い。今年度の一般公募からの実績は編集委員が 4 名、査読者が 2 名の公募があった。

4．教育部

生涯教育制度、現職者研修、臨床実習指導者講習会、事例登録制度の研修会を開催。募集期間が短くなっているところがあるためスムーズな運営ができるようにしていきたい。班編成を組んで部員と仕事を分配しながら仕事を進めていく。会員に積極的に研修会を受けて貰えるよう SNS アカウントでの情報発信も検討。

5．広報部

ニュース班と対外広報班に分かれて活動を行っている。今年度 6 回の発行のうち 4 回を郵送する予定。
郵送を 3 回から 4 回に増やしたが費用は予算内で実施できている。郵送回数などは予算含めて検討していく。
また県士会ニュースの PDF 版を LINE で配信する案も頂いたが今後検討していきたい。
・対外広報について
県内養成校との連携では、今年度は協力して頂ける学校がさらに増えたため活動を継続していく。一方でかなり労力やマンパワーを感じるため理事や代議員などに協力を頂くのはどうか。
・未入会の方に向けた広報について
広報について検討中。どのように発信できるか検討しているため次年度に取り組んでいきたい。

6．福利部

会員促進、福利厚生に繋がるような活動を実施。地域事業として、OT のリーダー・役職者・管理者向け研修、交流会を検討。参加者の意見を踏まえて 5 年目交流会やイクメン交流会などの交流の場も検討予定。
・LGBTQ の取り組みについて
現場レベルでの知識や情報が不足している実情があるため福利部の中でまずは知識をつけていくところから始める。
・子育て・介護時の継続した県士会活動への参加について
昨年度のミーティングから得られたことを生かして今年度中に早急に企画実施を検討していく。
・夏休み中に実施したオンライン見学について
夏休みだけでなく冬休みや春休みも検討。対面についても検討予定。周知の遅れで参加者が少ない傾向であったため年間計画を通して参加者を増やせるような働きかけを行っていきたい。

7．地域リハビリテーション部

人材育成研修や地域リハビリに関する研修会の開催、三団体協議会との情報交換を継続していく。また県、市区町村の地域・介護予防関連で連携・協力を図っていく。

8．制度対策部

作業療法に関わる社会保障制度の情報収集と発信について、県士会ニュースへ情報コーナーを 10 月から創設する予定。2022 年スタートの神奈川県保健福祉医療計画に着目して県のパブリックコメントに投稿できるように準備している。
下半期に向けて制度別にかかる会員数の母数の他に、所属する属性数の母数（精神科や回復期）など算出して事業に活用したい。現在、データがないが集まれば属性ごとにオンラインを活用して集まっても良いのではないかと検討している。福祉用具については福祉用具に関する相談窓口を作っていきたい。
自動車運転について、今期はシミュレーターに実際触れてもらうなど対面の研修ができないか調整している。神奈川県士会としては独自の取り組みとして県警との研修会も進めていきたい。免許センターに関しても窓口がないため県に対してのアピールも必要ではないかと思う。

9．規約委員会

規程については適宜見直しが出来てきている。選挙管理規程や謝金規程の修正は今年度必要。
マニュアルの整備を進めるにあたり、アイディアがあれば助言をお願いしたい。

10. ウェブサイト管理委員会

現事業を中心に進めていく。県士会サイトの閲覧も減ってきているため、今年度からインスタなどの運用なども課題になってくる。引き続きインスタやＸ（旧ツイッター）の導入は進めていきたい。

11. 学会評議委員会

第 19 回県学会の運営サポートを中心に行っている。下半期は第 20 回の学会に向けて準備をしていく。
さらに第 6 回神奈川県臨床大会の大会長・実行委員長・部員も揃ってきており、会場を選出している。ホームページ、演題登録など参加の体制を整えていく。
また県学会・臨床大会のマニュアルの整備を進めていく。今後は学術部と協力して演題登録システムなど整備をして運営できるようにしていきたい。
・助成金の活用について。
審査が通りやすい書類の書き方など、部員と相談しながら検討していきたい。

12. MTDLP 推進委員会

下半期に向けて研修会を予定通りに進めていく。意識調査などのアンケートも検討中。推進の観点より、県士会ニュースの連載なども行っていきたい。

13. 認知症対策委員会

３つの事業を展開。下半期に研修会 2 回を予定している。関連団体への人材派遣検討をしているが人員が少ないことで派遣まではできていない。今後も連携を深めて行く。

14. 公益法人化対策委員会

公益化は、年度初めの理事会でご確認いただいた通り、その是非について情報収集と議論を行い、今年度中に結論を出すように進めている。各理事のご意見、財政との事業・運営における各部門の影響を総合的に考えて、県士会の目的に沿うような結論を位置付けるように進めていく。公益事業の拡大に関する予算についても検証されている。公益法人取得の是非に関わらず、県民の保健事業、福祉に寄与する事業を進める予定。内容をしっかり検討して進めていく。

公益化に関して今期はお金がどれくらいかかるか、メリットやデメリットがどうなのかを具体的に捉えながら本来目指す姿を検討して、将来に繋がる結論を出していく。意見には委員会だけで検討するのは大変ではないかとあるが、公益化の是非を委員会だけで検討するだけではなく理事にも実際に調査してもらうことも今後はあるかと思う。情報収集から行っていきたい。

15. 地域包括ケアシステム推進委員会

横浜市地域リハビリテーション活動支援事業や人材バンク設立へ継続的に取り組んでいく。

16. エリア化推進委員会

OT コネクトミーティングを 2 回、エリアミーティングを 8 回企画している。エリアによって参加人数が異なるが今年度は地域別に開催していく。地域支援活動助成金事業については検討中。

17. 選挙管理委員会

今年度は代議員選挙がある。事務局と連携しながら準備を進めていく。

Ⅱ．全体を通して

（神保(洋)理事）教育部での研修会について、広報部と協力できることはあるか。また LINE の登録者数は何人か。

（金山理事）今後の広報部の組織改編にもよるが、窓口は別々になっており、WEB、LINE、ニュースと窓口が３つになっているため今後に向けては情報発信の窓口は一括でできるように考えている。研修でのチラシの発送に関しても、年間予定を集めて発信するのか、チラシで発信するのかは効率良く行えるよう検討したい。LINE 登録人数は理事会開催時点で 231 人。

（金山理事）第 19 回県学会での県士会ブースについてブースの確保のみで詳細はまだ決まっていない。福利部と広報部が当日はブースを運営していく予定。

（吉本理事）規約委員会のマニュアル収集に関して、作りかけのものでも良いか。

（神田理事）理事メールでサンプルを共有する。11 月までにマニュアルの収集を行っていく。急な退任などあった際に引き継ぎが円滑に行えない可能性があるため、作成予定。マニュアルが現在ない部は作成を進めてほしい。（流れがわかる形で、作りかけでも構わない。）誰が理事になっても運営できるように作成していく。11 月までに簡単で良いので今ある項目を洗い出してもらい収集していく。

（田中理事）・事業計画について

下半期、次年度事業に向けて進めて頂きたい。会員推移について県士会の会員数は士会員、協会員の差は広がってきている。入会者数が 8 月の時点で 72 人と例年と比べて少し少ない。下半期に向けて会員増加に向けての取り組みも入れてもらいたい。会員に対して少しでも県士会活動への参加へのきっかけづくりを行っていく。次回は次年度に向けての事業計画を提出して頂く。

Ⅲ．神保会長より

長い時間お疲れ様でした。次年度に向けてのアイディアを共有できたかと思うので情報共有をしながら進めて頂けたらと思います。また本日は第 20 回県学会学会長を務めて下さる中西理佐子先生をお招きしました。

ご本人からご挨拶を頂きたいと思います。

中西学会長からご挨拶を頂いた。

議事録署名人	議長：	神保　武則	印
	理事：	佐藤　範明	印
	理事：	神田　崇央	印
	監事：	錠内　広之	印